

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：神石高原町立三和中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
神石高原町立三和中学校	5	92
神石高原町立来見小学校	8	65
神石高原町立三和小学校	8	110

(R5.12.1現在で記入)

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

＜研究テーマ＞

主体性を発揮する児童生徒の育成

ー「地域」を教材とした探究的な活動を通してー

(2) 資質・能力の設定について

決定の際には、三和中学校と連携型中高一貫校である県立油木高等学校とのつながりも意識した。

○課題発見力

(思考・判断・表現① 「課題の設定」)

○課題解決力

(思考・判断・表現④ 「まとめ・表現」)

○振り返り力

(主体的に学習に取り組む態度③ 「将来展望・社会参画」)

2 実践事例

【「立ち止まりポイント」の効果的な位置づけ】

児童生徒が意欲的に探究活動を行っているかを常に見取る。指導者は、ファシリテーターとしての立場をとり、活動をコーディネートしていく気持ちで児童生徒を見守り、しっかり試行錯誤させる。

○三和小学校1年生

水遊びの道具ができた後、「運動場の砂場を使って水遊びすることができるよ。」と教師が伝えると・・・。「でも、砂場には水がないよ。」「水道もない。」「たくさんバケツを用意して砂場へ水を運ぼう。」



無事じょうろやホースを使って水を確保することができた。

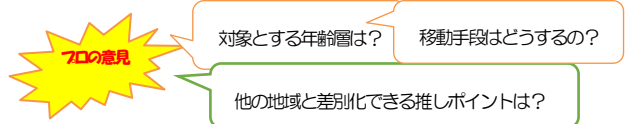
○来見小学校3年生



地元の人を迎えて植え、育てたこんにゃくいもを使って、まずは自分たちで作って食べてみたが、「苦い!失敗だ!」これが立ち止まりポイントとなって、再び地元の人に来ていただいて、こんにゃくづくりを行った。「もっとミキサーにかけないといけなかった。」「しっかりとこねないといけなかった。」と教員から教えられることなく、自ら気づくことができた。

○三和中学校3年生

人口増加のためにできることを考えた生徒は、自ら観光協会にかけあい、自分たちの考えたツアーを提案したが・・・



計3回のプレゼンを経て、見事に1つのツアー（高齢者を対象とした「神石高原町でのんびりしませんか?」ツアー）が実際に検討されることになった。

【児童生徒が学びやすい環境づくり】

○道具や材料の準備

必要だと思う道具や材料をさりげなく準備しておいて、児童生徒はそれを自分の考えで選択し活動を進めていく。



○自己決定の場づくり



決して教員が押しつけない。さまざまな方法で、自己決定する場をしかけていく。

○図書館司書との連携



○学習の足跡の掲示



これまで学習してきたことつながりを意識することができるとともに、次の学習に活かすこともできた。また、活動中に本来の目的や原点に立ち返らせるためにも効果的であった。

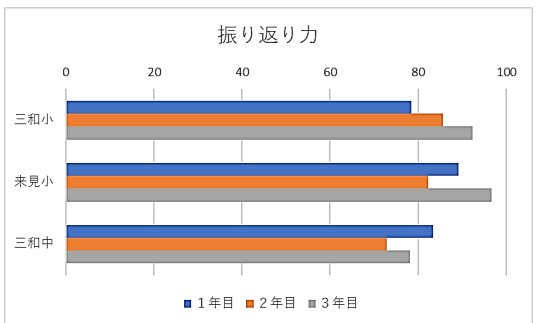
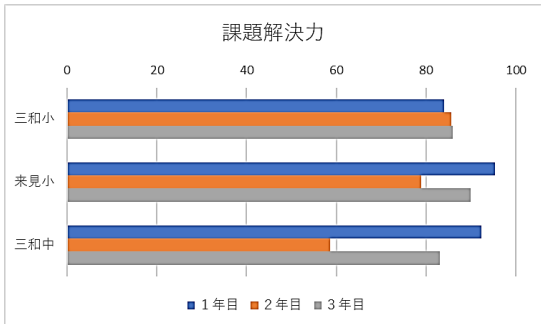
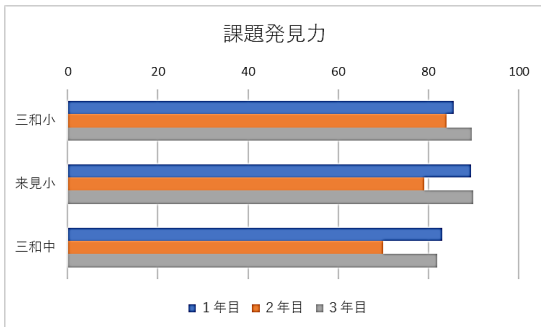
【つけたい力・なりたい姿の系統表に沿った見取り】

「つけたい力・なりたい姿」の系統表に沿って、本時の児童生徒の姿がどうであったか、またそのための手立ては有効であったかについて協議した。



3 研究の成果と課題等

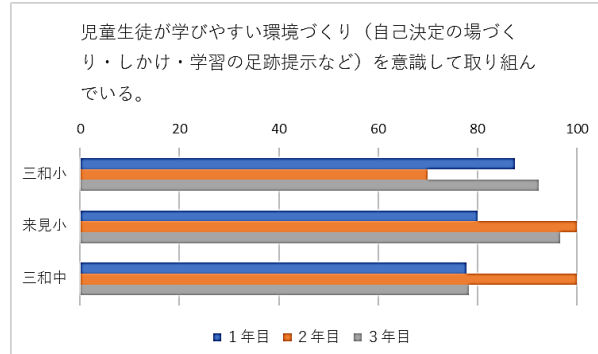
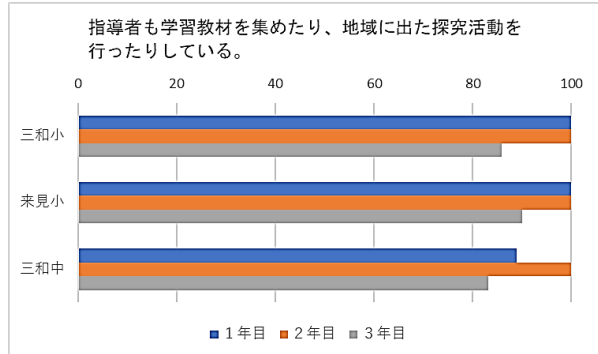
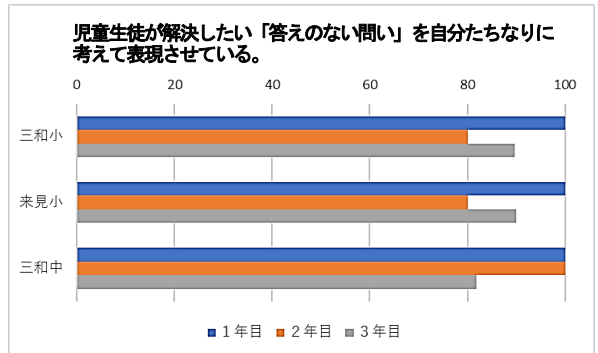
<児童生徒アンケートより>



<教職員アンケートより>

- 「知りたい」「やりたい」「もっとやってみよう」と生活・総合をいきいきと楽しむ姿が多く見られた。
- 試行錯誤しながら解決しようとする態度が見られた。
- 課題にぶつかったり立ち止まったりしたとき、自分たちでどうすればよいのか考え解決しようとする力が高まった。
- 町の課題を自分ごととして捉えた実現可能な解決策を考えることができるようになった。
- 指導者自身も児童生徒と一緒に考え探究することで学ぶことができた。
- 児童生徒の思いや願いに沿った学習活動や計画を立てながら、

- 単元づくりをすることができるようになった。
- 立ち止まりポイントの効果的な位置づけができるようになった。
- 環境づくりについて探究することができた。
- どんな力がついたのか、次につながるものは何かなど振り返り力に課題がある。
- 「もっとよくしたい」など友達の意見を取り入れて考えを深めることに課題がある。
- 情報収集の方法に偏りが見られる。
- ICTの効果的な活用を更に進める必要がある



(1) 成果

- ・児童生徒の思いや願いを中心とした「本物の探究」に児童生徒も教員も意識して取り組むことができるようになった。
- ・どこで児童生徒を本気にさせるのか「立ち止まりポイント」(かべ・失敗・ショック・本物にふれることなど)を位置づけて、思考させることができるようになってきた。
- ・環境を整えたことで児童生徒の学習の意欲が高まり、活動の方向性を主体的に確認することができるようになった。

(2) 課題

- ・振り返り力の向上

(3) 今後の改善方策等

- ・3年間の「本物の探究」の学びを生かして更なる充実に向けて取り組んでいく。
- ・今後どのように振り返り力を高めていくかを検討し、中学校区で連携しながら取り組んでいく。